

# ハーモニー

Harmony

第59号 2012年9月3日発行  
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

第20回学術集会のご案内・・・・・・・・・・	1	私の県の「ここが特色」⑩・・・・・・・・・・	7
日本養護教諭教育学会 第20回学術集会・		トピックス：医療的ケアの動向について・・	7
学会設立20周年記念集会プログラム・・・・	2	2012年度総会告示・・・・・・・・・・	8
学会設立20周年記念事業について(第2報)・・	5	学会誌第16巻第2号の投稿原稿の募集・・	8
特別企画「東日本大震災を経験して		事務局より・・・・・・・・・・	8
－被災地の今－」①・・・・・・・・・・	6	編集後記・・・・・・・・・・	8

### 第20回学術集会のご案内

学会長 林 典子(東海学園大学)

今年の夏はロンドンでオリンピックが開催され、日本人選手が史上最多の38個のメダルを獲得しました。この結果とオリンピックまでのプロセスにおける努力に大きな拍手を送りたいと思います。

さて、本学会も設立20周年を迎えたことから、第20回学術集会と学会設立20周年記念集会を合わせて、名古屋駅前の「ウインクあいち」において、10月6日(土)・7日(日)に開催いたします。

メインテーマを「職制70周年を経た今、子どもの健やかな成長を支える養護教諭の“力量”を究める」と題して、20周年記念行事(式典・特別講演・ミニシンポジウム)、シンポジウム、一般発表、ランチョンセミナー、ワークショップ、常設展示を企画しました。

学会長である林が現職養護教諭40年の経験と、全国養護教諭連絡協議会・静岡県養護教諭研究会の役員を長期に経験していること、退職後、大学において養護教諭養成に携わっていることから、「養護教諭、研究会、養護教諭養成の経験の中で捉えた養護教諭の力量」をテーマに学会長基調講演を行います。それを踏まえてのシンポジウムでは、「養護教諭の資質向上・力量形成のために今すべきこと」として、養成の立場から、

行政の立場から、主任養護教諭の立場から、研究会の立場からの意見発表と協議を行います。本学会から初めて試行の一般演題を区分することになった、口頭発表・ポスター発表があります。40演題を超す発表があり、会員の日頃の研究成果が聞けます。ワークショップでは、「危機管理における養護教諭の役割」、「実践研究の進め方」、「機能的な保健室作り」、「医療的ケアの実際」を企画し、会員や現職の養護教諭にとって必要な資質・技能の内容を企画しました。ランチョンセミナーも企業の協力により二つ用意しました。

学会設立20周年を記念した内容では、「学会20年のあゆみ」や用語の解説集<第二版>の紹介、ミニシンポジウム「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」などがあります。

また、「学会のあゆみ」や「全養連及び東海地区の養護教諭研究会の活動」の常設展示があります。学会の歴史や養護教諭研究会がどのような活動をしているかを知っていただきたいと思います。

会場である「ウインクあいち」は、JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面に徒歩5分の所(地下道あり)です。大変アクセスの良い所ですので、会員はもとより現職の養護教諭の方々の多くの参加を期待しております。

実行委員一同、心よりお待ちしております。

## 日本養護教諭教育学会 第20回学術集会・学会設立20周年記念集会プログラム

メインテーマ：「職制70年を経た今、子どもの健やかな成長を支える養護教諭の“力量”を究める」

期日：2012年10月6日（土）10：00～7日（日）16：20

会場：愛知県産業労働センター「ウインクあいち」〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38

10月6日（土）9：20～受付 大ホール

学会設立20周年記念集会（10：00～12：30）大ホール

◇記念式典

・挨拶及び「日本養護教諭教育学会20年のあゆみ」等

◇特別講演……………座長 後藤ひとみ（愛知教育大学）  
「養護教諭の学校事故判例と救急処置を巡る法的諸問題」 菅原哲朗（キーストーン法律事務所弁護士）

◇記念誌・用語解説集第二版等の紹介

第20回学術集会

◇学会長基調講演（13：40～14：20）大ホール……………座長 北口和美（大阪教育大学）  
「養護教諭、研究会、養護教諭養成の経験の中で捉えた養護教諭の力量」 林典子（東海学園大学）

◇シンポジウム（14：25～16：25）大ホール

「養護教諭の資質向上・力量形成のために今すべきこと」

コーディネーター 林典子（東海学園大学）

大沼久美子（女子栄養大学）

シンポジスト 北口和美（大阪教育大学）

波多幸江（新潟県教育庁前指導主事）

北村栄子（愛知県主任養護教諭会会長）

戸塚豊子（静岡県養護教諭研究会前会長）

◇設立20周年祝賀会・懇親会（17：00～19：00）8階展示場（802、803、804）

10月7日（日）8：45～受付 8階展示場（802、803、804）

◇学会助成研究発表（9：00～9：40）第5会場（1202）……………座長 高橋香代（岡山大学）  
「学校保健活動の重要性を学校評価に位置づけるための研究－課題解決型保健室経営計画を基盤として－」

○新開美和子（広島市立基町高等学校）

「子どもの自尊感情を高めるための養護実践の検討」

○照井沙彩（札幌市立八軒西小学校）

◇学会設立20周年記念ミニシンポジウム（9：50～11：20）第5会場（1202）

テーマ「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」

コーディネーター 現理事長 三木とみ子（女子栄養大学）

シンポジスト 堀内久美子（名古屋学芸大学） 大谷尚子（聖母大学）

天野敦子（前弘前大学）

後藤ひとみ（愛知教育大学）

◇一般演題（9：45～11：00）第1会場（1001）

<原理・歴史>（9：45～10：15）……………座長 岡田加奈子（千葉大学）

I-1 思春期の脳の変化と体験学習が思春期の感情面・社会性に及ぼす影響

○園田淑子（玉川大学大学院脳情報研究科）

<現職教育>

I-2 フィジカルアセスメント教育に関する養護教諭のニーズ

－現職養護教諭のための研修後の調査から－

○遠藤伸子（女子栄養大学）他

<養成教育>（10：15～11：00）……………座長 遠藤伸子（女子栄養大学）

I-3 教職科目「教職実践演習」における「実践」についての考察 ○幡中理恵（大阪市立第二工芸高校）他

I-4 「養護を掌る」専門職の要件として、養護教諭の倫理綱領の必要性と今後の展望

－養護教諭養成教育の羅針盤－

○鎌田尚子（桐生大学）他

I-5 養護教諭養成大学における「子どものからだをみる」フィジカルアセスメントに関する教育の現状

○葛西敦子（弘前大学教育学部）他

◇一般演題（9：45～11：00） 第2会場（1002）

- <保健室経営>（9：45～10：30）……………座長 深見真弓（愛知県総合教育センター）
- Ⅱ-1 中学校の保健室における生徒の利用制限についての実態 ○河本肇（広島国際大学）
- Ⅱ-2 A県下私立学校における保健室の設備・備品等の現状と課題 ○加藤晃子（滝学園滝中学・滝高等学校）他
- Ⅱ-3 養護教諭職務の充実と複数配置化 -質問紙調査からの検討：第2報- ○大野泰子（鈴鹿短期大学）他
- <組織活動>（10：30～11：00）……………座長 永田智恵子（静岡市立賤機中学校）
- Ⅱ-4 養護教諭が行うピア・サポートプログラムの実践  
-支援活動の実際- ○近藤充代（愛知県立豊橋工業高等学校，愛知学院大学大学院）
- Ⅱ-5 養護教諭の実践研究推進を目指した養護教諭組織の運営に関する研究  
-会員による活動評価をもとに- ○齋藤いずみ（横須賀市立浦賀中学校）他

◇一般演題（9：45～11：30） 第3会場（1102）

- <保健管理>（9：45～10：45）……………座長 戸澤まゆみ（愛知県教育委員会）
- Ⅲ-1 知的障害を伴った自閉症児に有効な視力評価方法の検討  
-知的障害特別支援学校における視力検査の充実を目指して- ○工藤志歩（横浜国立大学教育学研究科）
- Ⅲ-2 教育支援センター（適応指導教室）における健康課題 ○江崎和子（九州女子短期大学）他
- Ⅲ-3 植物のもたらすメンタルヘルス効果 -生徒・養護教諭への調査より- ○三並めぐる（福岡県立大学）他
- Ⅲ-4 救急車要請における実態と課題  
-学校における救急車要請事例の分析から- ○浅田知恵（名古屋市教育委員会）
- <養護実践>（10：45～11：30）……………座長 河田史宝（金沢大学）
- Ⅲ-5 高校生の「生と性」に関する一考察 -いのちの教育を通して- ○徳橋知子（名桜大学）
- Ⅲ-6 幼稚園に勤務する養護教諭の職に関する一考察 ○米野吉則（兵庫大学附属須磨幼稚園）他
- Ⅲ-7 学校保健実習で看護学生がつかむ養護教諭の役割 ○山田小夜子（岐阜医療科学大学）他

◇一般演題（9：45～11：30） 第4会場（1201）

- <健康教育①>（9：45～10：30）……………座長 梶岡多恵子（東海学園大学）
- Ⅳ-1 月経前症候群（PMS）が疑われる症状を呈する女子大学生の実態  
○遠藤瑠生（弘前大学大学院教育学研究科）他
- Ⅳ-2 高校生の第4期麻疹風疹混合予防接種歴と「感染症の基礎知識」との関連  
○豊島幸子（群馬大学大学院保健学研究科）他
- Ⅳ-3 医薬品及び医薬品の教育に対する養護教諭の意識調査  
-指導の充実に向けた支援の在り方の検討- ○香田由美（兵庫教育大学大学院）他
- <健康教育②>（10：30～11：30）……………座長 石田敦子（名古屋市立宮根小学校）
- Ⅳ-4 定時制高校生の食習慣について  
-栄養士と養護教諭による給食指導・食育授業- ○山本裕果（愛知県立時習館高等学校）他
- Ⅳ-5 心とからだの健康を高めようとする生徒が育つ保健指導 ○大門志乃（名古屋市立白山中学校）
- Ⅳ-6 ストレスへの対処を重視した心の健康づくり ○森佳世子（名古屋市立東志賀小学校）
- Ⅳ-7 学校と家庭をつなぐ「保健だより」の活用における一考察 ○瀬口久美代（熊本大学大学院）他

◇一般演題（10：00～11：12） 8階展示場（802、803、804）

ポスター発表Ⅰ

- <養成教育>（10：00～10：36）……………座長 松田芳子（熊本大学）
- P-1 養護教諭志望学生の身体的接触抵抗と幼少時の両親との関係 ○石田妙美（東海学園大学）他
- <現職教育①>
- P-2 色覚特性者の困難を支援する方法に  
-子どもの将来の夢を摘み取らないために- ○高柳泰世（本郷眼科・神経内科）他
- P-3 退職養護教諭を活用した新規採用養護教諭研修の課題  
-教育委員会の研修担当者対象の調査結果をもとに- ○下村淳子（愛知学院大学）他
- <現職教育②>（10：36～11：12）……………座長 大平曜子（兵庫大学）
- P-4 大学間連携による養護教諭初任者支援 フォローアップ研修プログラム開発-1  
○櫻田淳（埼玉県立大学）他
- P-5 教育ニードアセスメントツール-養護教諭用-の開発 ○野本百合子（愛媛県立医療技術大学）他

<保健室経営>

P-6 小学校における養護教諭の児童虐待対応と家族支援(第2報) ○青柳千春(群馬県総合教育センター)他

ポスター発表Ⅱ

<保健管理①>(10:00~10:24).....座長 三村由香里(岡山大学)

P-7 大学生の子宮頸がんに関する認知について ○佐藤千明(北翔大学)他

P-8 学級担任が行う朝の健康観察に関する研究 ○田邊恵子(磐田市立磐田中部小学校)

<保健管理②>(10:24~10:48).....座長 古田扶三子(岩倉市立南部中学校)

P-9 小学生の自尊感情と生活習慣との関連 ○植田祐衣(北翔大学)他

P-10 A小学校における児童のトイレの使い方に関する一考察 ○西田麻優香(静岡県立科学技術高等学校)他

ポスター発表Ⅲ

<健康教育①>(10:00~10:36).....座長 世一和子(岐阜県立看護大学)

P-11 養護教諭と栄養教諭等の連携による食育の実態と課題② ○大川尚子(関西福祉科学大学)他

P-12 中学生と大学生における感情表出方略と体調不良との関連とその比較

○藤林まど花(久留米大学大学院心理学研究科)

P-13 思春期におけるボディイメージ形成の要因に関する研究 ○稲垣尚美(東京大学大学院教育学研究科)

<健康教育②>(10:36~11:12).....座長 大川尚子(関西福祉科学大学)

P-14 健康な生活を送ろうとする子どもが育つ保健学習 ○山口美由紀(名古屋市立明倫小学校)

P-15 生徒の歯と口の健康づくり

ーライフスキル育成による生活習慣の形成を通してー(第1報) ○横山美智江(一宮市立尾西第三中学校)

P-16 大学生の昼間の眠気に関する調査 ○山田玲子(北海道教育大学札幌校)他

◇ランチョンセミナー(11:30~12:30)

ランチョンセミナー1 第1会場(1001).....座長 出川久枝(名古屋市立城北小学校)

「色覚特性者の困難さを知って支援しましょう」

講師 高柳泰世(名古屋市学校医(眼科)会名誉会長) 各務憲一(財団法人名古屋市スポーツ協会事務局長)

森千鶴(名古屋市立西養護学校教頭) 中村仁美(名古屋市立千代田橋小学校養護教諭)

元倉智博(名古屋市学校医(眼科)会会長) 鈴木聡(東京農業大学)

協賛 株式会社 HARMONY

ランチョンセミナー2 第2会場(1002).....座長 真野初美(東郷町立兵庫小学校)

「脳を活発にするバランス栄養生活ー欠食および朝食タイプによる試験結果よりー」

講師 只野健太郎(大塚製薬株式会社佐賀栄養製品研究所研究員)

協賛 大塚製薬株式会社

◇総会(12:40~13:40) 第5会場(1202)

◇ワークショップ(13:50~16:20)

W1「危機管理における養護教諭の役割」(定員80名) 第1会場(1001)

講師 田嶋八千代(前岡山大学) 上村弘子(岡山大学)

W2「実践的研究の進め方」(定員80名) 第2会場(1002)

講師 斉藤ふくみ(茨城大学) 鎌塚優子(岐阜聖徳学園大学)

W3「学校における医療的ケアの実際」(定員30名) 第3会場(1102)

講師 福田博美(愛知教育大学) 藤井紀子(愛知教育大学)

W4「機能的な保健室づくり」(定員80名) 第4会場(1201)

講師 浅田知恵(名古屋市教育委員会) 平山美奈子(静岡市教育委員会)

◇常設展示 6日(12:00~17:00) 8階展示場(802,803,804)、7日(9:00~15:00) 11階中会議室(1101)

・日本養護教諭教育学会のあゆみ

・養護教諭研究会の活動(全国養護教諭連絡協議会・東海地区の養護教諭研究会)

## 学会設立20周年記念事業について

### — (第2報) —

学会設立記念事業実行委員会委員長 後藤ひとみ

1992年11月に名古屋市で開催された第39回日本学校保健学会(学会長:安藤志ま先生)の一会場にて設立集会を開催して以来、養護教諭教育(養護教諭の資質向上と力量形成)の発展を願って発展してきた本会も20周年を迎えることとなりました。

そこで、二十歳の成人を記念して、これまでの足跡を振り返り、ますますの発展にむけたビジョンを確認していきたいと考え、下記のような「学会設立20周年記念事業」を行うことになりました。この事業の実施にあたり、2007年度予算より事業費を計上してきたことはご承知のことかと思えます。

いよいよ同時開催となる第20回学術集会開催も近づきましたので、各事業の進捗状況と学術集会での記念集会の次第などをご紹介します。

会員の皆様におかれましては、是非、初日午前10時より開催します記念式典からご参加くださいますようお願い申し上げます。

#### <事業の進捗状況>

##### 1. 20周年記念誌の発行

二十歳を迎えた学会の成長を記し、これからの発展を願うという趣旨で発行致します。

現在、本会のHPとリンクを張っている組織の代表宛に執筆依頼を行っています。

第20回学術集会での記念集会の様子も記載するため、発行は次回のハーモニー発送時(本年12月)を予定しています。是非、掲載してほしいという内容がございましたら検討させていただきますので、事務局までお知らせ下さい。

##### 2. 記念集会の開催

###### 1) 記念特別講演の開催

キーストーン法律事務所の菅原哲朗先生に、「養護教諭の学校事故判例と救急処置を巡る法的諸問題」と題してお話いただきます。先生は、学校事故(特にスポーツ関連の事故)を通して、養護教諭向けのご講演や研修もなさっており、大変わかりやすいと評判の方です。ご期待下さい。

###### 2) ミニシンポジウムの開催

「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」と題して、本実行委員会副委員長である三木とみ子理事長がコーディネートします。本学会の前進

である「全国養護教諭教育研究会」の代表世話人でもあった初代理事長の堀内久美子先生からは研究会から学会へと改称した経緯なども伺えると思います。

###### 3) 「日本養護教諭教育学会のあゆみ」の常設展示

初日の記念祝賀会会場に、本学会の歴史を掲示します。合わせて、ハーモニー及び学会誌の創刊号から最新号までを展示し、第1回から第20回までの研究大会及び学術集会の抄録集も展示します。創刊号のぬくもりを感じながら、20年間の発展を確認していただければと思います。

##### 3. 学術集会における「一般演題の領域区分」の提示

日本養護教諭教育学会として、「養護教諭の専門性を支える柱(あるいは学問構造)」や「養護教諭教育の理念」について示していく責務があり、演題区分の検討は懸案事項でした。そこで、第20回学術集会を契機として、今回は10項目(その他を含む)の演題区分を提案し、その枠組みで一般演題にエントリーしてもらうことにしました。その成果と課題については、ミニシンポジウムの中で報告する予定です。

下記が提示した10項目とその解説です。少しずつ修正を重ねてより良いものになりたいと考えています。今後に向けて、ご意見をいただければ幸いです。

###### <区分名とその抽出理由>

まず、学問的な区分を意識して、養護学や養護教育学などの基盤にかかわる領域として①②の2項目を提示しました。

①原論、歴史…養護の概念や歴史に関するもの

②制度…養成・研修など法的な背景をもつ様々なもの

次に、学会名にある「養護教諭教育」の構成要素(養護実践・養成教育・現職教育の三位一体)を意識して③④を提示しました。「養護実践」は広範囲となるため、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」で取り上げている用語を重視して、「保健管理」「健康教育」「組織活動」をクローズアップさせ、かつ、これら3つに該当しない「保健室経営」も特出させ、これ以外の実践を「⑨養護実践」とし、さらに「その他」も加えました。

③養成教育…3本柱の一つである。

④現職教育…3本柱の一つである。

⑤保健管理…用語集作成に際し、「健康管理は人的要素が強くなるので、人的・物的要素をふまえて、この言葉にした」経緯をふまえて表記。

⑥健康教育…用語集作成に際し、「保健教育は学校保健の領域で使用される言葉であるため、

より広い意味をもたせるために、この言葉にした」経緯をふまえて表記。

- ⑦組織活動…保健管理や健康教育を推進する上で欠かせないものである。「連携」を並記することも考えたが、全体のバランスからシンプルな表記にとどめた。
- ⑧保健室経営…他に比べて具体的な言葉となるが、いづれにも該当しないとの意見を受けて特出させた。
- ⑨養護実践…3本柱の一つである。(⑤～⑧以外のもの)
- ⑩その他…上記9項目に該当しないもの

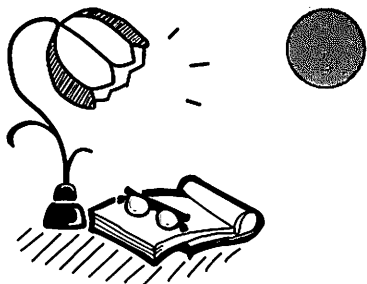
#### 4.「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>」の発行

昨年学術集会で報告した修正案をHPに掲載してきましたが、その後のWGでの検討をふまえて8月28日より最終案を掲載しています。9月上旬には印刷に入り、学会会場にて会員に配付し、会員外の方には販売する予定です。詳細は、HPをご覧ください。なお発行後も修正意見を常時受け付けて、学会活動としての改訂作業を継続していきますので、ご意見をお寄せ下さい。

##### <学会設立20周年記念事業実行委員会の組織>

- 顧問：堀内久美子、大谷尚子、天野敦子
- 実行委員長：後藤ひとみ、副実行委員長：三木とみ子、実行委員：安藤徹子、池田みすゞ、今野洋子、入駒一美、北口和美、古賀由紀子、小林央美、斉藤ふくみ、鈴木薫、鈴木裕子、高橋香代、徳山美智子、永田智恵子、山崎隆恵、吉田あや子
- 協力委員：圓岡和子、稲垣杏奈、齋藤いずみ、宮慶美恵子、郡司麻衣子ほか
- 学会設立20周年記念事業実行委員会事務局  
(学会事務局の兼務)

〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1  
愛知教育大学養護教育講座 後藤研究室  
TEL/FAX: 0566-26-2491  
Eメール: JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp



## 特別企画 『東日本大震災を経験して—被災地の今—』①

### 「こころの状態を注視して」

一関市立山目中学校 養護教諭 小山ゆかり

本校は岩手県最南端の内陸部にあり、築約30～60年の木造と鉄筋コンクリートの2棟の校舎からは、市街地が一望できる丘陵地帯に立地しています。そのため、津波被害はありませんでしたが、多少の被害があった地域からの状況として報告します。

生徒数は約450人で、震災当日、3年生は体育館で卒業式練習、1・2年生は教室で授業中で、保健室には体調不良の生徒数名が休養していました。

生徒達は、2日前の地震でも避難した経緯があったため、第二次避難指示に際し、比較的スムーズにテニスコートへ移動しました。ただ、テニスコートに隣接した体育館非常口では、1m程の残雪に先頭の生徒がつかずき将棋倒し寸前となりましたが、教員らによって助けられ難を逃れました。生徒の中には、過呼吸等体調不良を訴える者がいたため、養護教諭の周りに集めて声かけをしながら対応しました。

管理職より、学校には戻らない、学校から連絡があるまでは自宅待機するよう伝えられ、生徒達の帰宅場所を確認後、全員下校させました(現在では、岩手県教育委員会の『学校防災・災害対応指針』により、保護者と連絡が取れない等引渡しができない児童生徒については、学校において保護することになっています)が、1型糖尿病生徒がインスリン注射器を置いたままだったため、余震の合間をぬって本人とともに教室へ取りに戻りました。

男性教員らは、ライフラインが復旧するまでの間、テニスコートに設営したテント内に待機し、翌日からは、校舎内外の被害状況の確認と清掃・後片付けが始まりました。被害状況としては、教室内の照明器具や暖房機の破損、壁・トイレタイルの崩落、地盤沈下、水道管の破裂等がみられましたが、築年数の短い鉄筋コンクリート校舎の被害が大きく、耐震補強も併せた改修工事が完了したのは今年の6月になってからでした。体育館も使用不可の状態でしたが、安全な避難場所への誘導の確保と短時間の使用を条件に、修了・卒業式、入学式等を縮小開催しました。登校日等生徒への連絡は、コンビニエンスストアや公民館に掲示し、修了式には不登校気味であった生徒も出席、友人との再会を喜び合っていました。4月以降からは、ほぼ学校歴通りに各種行事が実施され、また、一関市教育委

員会による放射線量測定と低減対策も行われました。

震災から1年6か月程が経ち、当地では以前と同じような生活が戻っています。また、被災地から転入してきた生徒たちも、部活動に励んだり友人と談笑したりする等学校生活に馴染んでいるように見えますが、目に見えないところの状態を今後も注視していく必要があると感じています。本校でも危機管理マニュアルが見直され、より詳細な状況下での震災時の対応が示されましたが、養護教諭として、あの時の対応は適切であったのか自問自答する日々が続きました。

学会からは、震災直後に新潟県養護教員研究協議会編集の冊子をいただき、また、今も被災地で奮闘している養護教諭の報告も数多くなされ、防災教育の重要性や、被災直後から数年にわたる心身両面への支援のあり方が示されていますが、3.11で得た教訓を当地の実情に合わせて生かしていくことが必要だと痛感しています。また、通常の生活に戻っていくにつれ、震災に対する危機意識を風化させない取組も必要だと思います。

今、改めて3.11を振り返り、当地における震災時の養護教諭の対応のあり方を、仲間とともに検討していきたいと考えています。

## 私の県の「ここが特色」⑯

### 『養護教諭のための自主勉強会』

大阪府立柴島高等学校  
指導養護教諭 平松和枝

大阪府では、養護教諭の急激な世代交代を見据え、平成20年度より現大阪府立高槻支援学校長の尾崎泰子先生を発起人に、先輩から若手養護教諭へのバトン渡しの場を提供し、学びのネットワークづくりを目的とする、『養護教諭のための自主勉強会』をスタートさせました。

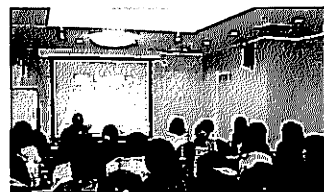
この勉強会の特長は、大阪府内の小・中学校、高等学校及び支援学校の養護教諭を対象に大阪府教育センターの「カリナビ自主研修支援事業」\*を活用し「カリナビサポート講座」として、実施しているところです。教育委員会及び教育センターの担当指導主事の先生方の支援をいただき、主幹教諭（大阪府では「首席」）や指導教諭を務める養護教諭が中心となり講義や演習、参加者同士の実践交流を行ってきました。主に新規採用養護教諭研修終了後から10年経験者研修までの期間にある養護教諭を対象とし、年間5回の定例会を開催しています。今年度で5年目を迎えました。昨年度より若手の運営委員に事務局業務を引き継ぎ、世代交代が実現しつつあります。

今まで取り上げたテーマは、保健室経営計画・学校

保健委員会の活性化・学校事故対策・感染症対策・健康相談活動の実際・発達障害を含む特別支援教育・学校における医療的ケア・児童生徒の委員会活動・保健教育の実践・学校環境衛生等、参加者のニーズに応じて多様な内容となっています。

開催場所は原則として教育センター内の研修室ですが、時には学校見学や会場を変えて精神科医師や臨床心理士、弁護士等を講師に招き講演会を企画することもあります。

子どもたちを取り巻く環境が変化し、健康課題が複雑化多様化するなかで、この勉強会が養護教諭の専門性を深め、個々の資質の向上につながる自主的・主体的な研鑽の場として長く続き、大阪の養護教諭のナビゲーター役として情報発信できるような会に発展していくことを願っています。



\*大阪府教育センター「カリナビ」：正式名称は「カリキュラムNAV i プラザ」の「カリナビ自主研修事業」は、個々の教職員の指導力の向上を図るため、多様な自己研鑽の機会及び情報を提供するなどして、教職員の自主的、主体的な研修活動を支援することを事業の趣旨としています。

## トピックス

### 医療的ケアの動向について

京都市立北総合支援学校  
養護教諭 西 能代

現在、医療的ケアの必要な児童生徒は特別支援学校で約7,350人、小・中学校では約670人います。今後、在宅医療の推進により、さらなる増加が見込まれます。平成24年度から社会福祉士及び介護福祉士法の改正を受けて、医師や看護師との連携の下、一定の研修を受けた養護教諭を含む教職員によるたんの吸引等の実施が、法的に認められるようになりました。具体的行為は、喀痰吸引と経管栄養です。

課題は、適切な研修の実施・看護師等の適正配置・医師と看護師及び教員の連携協力体制の整備が挙げられます。さらに、年々高度化するその他の医療的ケア（人工呼吸器・酸素療法・IVH等）を実施する体制の検討が必要です。養護教諭は、医学的知識を基に、体制整備や児童生徒・保護者との関係構築、さらに教育と医療のコーディネート役として、重要な役割を果たさなければならないと考えます。

## 日本養護教諭教育学会2012年度総会告示

理事長 三木とみ子

下記の日程で2012年度総会を開催致します。

欠席される方は、同封の委任状を9月30日(日)必着にてお送り下さい。

- |      |                                                                                                                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ☆日 時 | 2012年10月7日(日) 12:40~13:40                                                                                                                                                  |
| ☆場 所 | 愛知県産業労働センター(ウィンクあいち)                                                                                                                                                       |
| ☆議 題 | 1. 2011年度事業報告<br>2. 2011年度決算・監査報告<br>3. 2012年度事業経過報告<br>4. 2012年度補正予算審議<br>5. 2013年度事業計画<br>6. 2013年度予算審議<br>7. 会則等の改正<br>8. 研究助成金対象研究の選定<br>9. 第22回学術集会(2014年)<br>10. その他 |

### 学会誌第16巻第2号の投稿原稿の募集

齊藤ふくみ(編集委員会事務局)

養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動に関わる研究成果(論文)を募集しています。論文の投稿は年間を通して受け付けていますが、目安として第16巻第2号(2013年3月発刊予定)への投稿は2012年9月30日(日)必着とします。投稿される際には、投稿規定(学会誌第15巻第2号99~104頁)を熟読されて、十分推敲された原稿をご投稿ください。査読に大幅に時間がかかる場合は、次号以降に掲載が延期されることがありますのでご承知ください。

- 投稿資格: 本学会会員であること。
- 原稿の種類: 論壇、総説、原著、研究報告、調査報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。原稿は未発表のものに限ります。

なお、本年度より編集委員会事務局は以下に変更になりました。ご投稿および問い合わせはこちらをお願いいたします。

<編集委員会事務局>

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号  
茨城大学教育学部教育保健教室 齊藤ふくみ  
TEL/FAX 029-228-8298(研究室直通)  
e-mail: fukumi@mx.ibaraki.ac.jp

※学会事務局とは異なりますので、ご注意ください。

## 事務局より

事務局長 圓岡和子

### ●学術集会にて事務局ブースを開設します

第20回学術集会の会場内に本部事務局を開設します。年会費の納入の他、新入会の受付、会員登録の変更などの諸手続きができます。まだ年会費をお支払いされていない方は、どうぞご利用下さい。また、学会誌の販売も行っています。通常は非売品としている第9巻第1号以降の学会誌も、学術集会中に限り販売しています。学会員以外の方も購入できますので、この機会にどうぞお買い求め下さい。

### ●総会の委任状提出をお願いします

2012年度総会に欠席される方は委任状の提出をお願いします。同封した委任状に必要事項をご記入の上、50円切手を貼って事務局までお送り下さい。

### ●住所等変更は早めに連絡を!

転勤・就職などで連絡先が変更になった方は、メールかFAXにて事務局まですみやかにご連絡ください。特にハーモニー等の届け先を勤務先に指定している方は、転勤・転職が決まりましたら、事務局にもご一報下さい。

## 編集後記

今回から特別企画として「東日本大震災を経験してー被災地の今」を掲載することになりました。震災後約1年半が経過しましたが、復興が進みつつある一方で放射能による被害は続いています。震災を経験した方々に今を語っていただくことにより、その状況を知り、今後も継続的な支援を考えていきたいと思えます。

ハーモニーにも20年の歴史があり、ハーモニーの前身である全国養護教諭教育研究会通信から数えて次号で60号となります。学会設立20周年記念事業の中にも、ハーモニーの展示が予定されています。そこでも学会の足跡を見ていただければと思います。(古賀)

